※2019年12月現在の情報です

JR（特急）

路　線	所要時間
博　多 ― 宮　崎	約5時間
小　倉 ― 宮　崎	約4時間20分
大　分 ― 宮　崎	約3時間
鹿児島中央 ― 宮　崎	約2時間

●宮崎駅 ☎0985-23-3454

B&S（九州新幹線接続高速バス）

路　線	所要時間
博多《新八代下車》⇒ 宮崎 （博多⇒新八代間は新幹線を利用）	約3時間
新大阪《新八代下車》⇒ 宮崎 （新大阪⇒新八代間は新幹線を利用）	約6時間

高速バス

路　線	所要時間	バス名
鹿児島 ― 宮　崎	約2時間45分	はまゆう号
熊　本 ― 宮　崎	約3時間25分	なんぶう号
福　岡 ― 宮　崎	約4時間20分	フェニックス号
		みとシティライナー
		サンマリンライナー
福　岡 ― 延　岡	約4時間30分	ごかせ号
福　岡 ― 延岡・宮崎（夜行）	約8時間20分	（特定日運行）
長　崎 ― 宮　崎	約5時間20分	ブルーロマン号
大分・別府 ― 宮　崎	約3時間45分	パシフィックライナー
高千穂 ― 宮　崎	約2時間40分	（特定日運行）
延　岡 ― 宮　崎	約1時間55分	ひむか

●宮崎交通 ☎0985-32-1000
［宮崎交通・西鉄高速バス運行のご予約］
●九州高速バス予約センター ☎0120-489-939（携帯不可）　※携帯からは 092-734-2727
●サンマリンライナー ☎050-3528-2120　●みとシティライナー ☎0120-475-511

高速自動車道

路　線	所要時間
北九州 ― 宮　崎	約4時間20分
福　岡 ― 宮　崎	約3時間15分
熊　本 ― 宮　崎	約2時間10分
大　分 ― 宮　崎	約3時間
鹿児島 ― 宮　崎	約1時間50分

●宮崎道路情報 ☎050-3369-6645

カーフェリー

	神戸港		宮崎港
月～土	19:10発	→	翌日8:40着
日曜日	18:00発	→	翌日8:40着
	翌日7:30着	←	19:10発

宮崎カーフェリー
●宮崎 ☎0985-29-5566
●神戸 ☎078-321-3030

航空機

路　線	所要時間	航空会社名
東　京（羽田）― 宮　崎	約90分	ANA・JAL・ソラシドエア
東　京（成田）― 宮　崎	約100分	ジェットスター
大　阪（伊丹）― 宮　崎	約65分	ANA・JAL
大　阪（関西）― 宮　崎	約65分	peach
名古屋（中部）― 宮　崎	約75分	ANA
福　岡 ― 宮　崎	約45分	ANA・JAL・ORC
沖　縄 ― 宮　崎	約80分	ソラシドエア
ソウル ― 宮　崎	約100分	アシアナ航空・イースター航空
台　北 ― 宮　崎	約120分	チャイナエアライン

●ＡＮＡ ☎0570-029-222
●JALグループ ☎0570-025-071
●ソラシドエア ☎0570-037-283
●ジェットスター ☎0570-550-538
●ピーチ ☎0570-001-292
●ORC ☎0570-064-380
●アシアナ航空 ☎0570-082-555
●イースター航空 ☎050-5520-6712
●チャイナエアライン ☎0985-64-9811

日向神話のステンドグラス（宮崎ブーゲンビリア空港）

原画／藤城清治氏　ステンドグラス／臼井定一氏

宮崎県 総合政策部
記紀編さん記念事業推進室
〒880-8501 宮崎市橘通東2丁目10番1号
TEL.0985-26-7099 / FAX.0985-26-7414

Facebook
「神話のふるさと みやざき」
神話のふるさと みやざき　検索

日向神話旅

一三〇〇年の時空を超えて、神々の世界へ

神話の源流へ。
宮崎県

狭野神社／高原町

はじまりの物語が幕をあける。

神話は文化・文明の起こりやその後の移り変わりを神や英雄の物語として伝えた、いわば民族のはじまりの物語です。古事記や日本書紀も神話からはじまりますが、そこには、文字を持たない遥か昔の日本に生きた人たちの記憶が映し出されているかもしれません。

そして、「朝日の真っすぐに射(さ)すくに、夕日の日照(ひで)るくに」宮崎県は、記紀神話の重要な舞台とされています。神話ゆかりの地には、遺跡や史跡とともに様々な伝承や神楽などが大切に守られ、私たちの「はじまりの物語」に描かれた風景や空気を感じとることができます。

［古事記について］

712年（今から約1300年前の奈良時代）に編纂され、現存する日本最古の歴史書です。上巻、中巻、下巻の3巻からなり、上巻は「国生み・神生み」、「天孫降臨」、「海幸彦・山幸彦」などの神話が載せられています。中巻は初代神武天皇から第15代応神天皇まで、下巻は第16代仁徳天皇から第33代推古天皇までの事績が記されています。

［日本書紀について］

720年に天武天皇の皇子である舎人（とねり）親王を中心に編纂されました。古事記と日本書紀は、ともに日本の誕生に始まり、神話から日本国が成立するまでの歴史を記していますが、古事記はそれまでの歴史書のうち、年月を経て本来の歴史が失われかけていたものを改めて調べ直し、天皇家の歴史として再編集されたもので、日本書紀は漢文による記述などから中国など外国を意識して書かれた国の正史といえます。

神々の系図

※神々の名前はカタカナで表記し、基本的に古事記の名前を使っています。

［神話エッセイ］

日向神話旅

極端な話ではあるが、時折、SNSのサイトをのぞくだけで旅をした気分になることがある。というのも、SNSでつながっている多くの知人達が、国内外の旧所名跡やご馳走の風景をいかにも楽しげに載せているからである。

だが、これらのSNS上での旅は、よくまとまったガイドブックをながめているようなもので、どうしても物足りない気持ちが残る。それは実際の旅と比べて、見て、触れてという実感の部分が欠けているからであろう。

たとえば、知人がSNS上に載せた鵜戸神宮本殿（日南市）の画像を目にし、「いいな」と思ったとする。鵜戸神宮本殿は、波の打ち寄せる断崖の岩屋（洞窟）に鎮座しており、多くの旅人が景勝として、その風景をSNS上に載せている。実際この種の画像は旅情を誘うものである。

そのような画像に導かれて、彼の地に足を踏み入れてみると、その岩屋からは、神秘的な静寂さ、心地良い湿気、清浄な空気といったものを感じとることができる。これらは、デジタル画像からは決して感じるとることのできない、まさに実感である。

また、岩屋の中の本殿裏側には、鵜戸神宮の神使（しんし）となっているウサギの像がある。神使とは、一般的に祭神の使いとされ、伏見稲荷大社のキツネなどが有名である。鵜戸神宮では、主祭神が鵜葺草葺不合命（ウガヤフキアエズノミコト）であることから、その「鵜」の字が「卯」・「兎」と転じ、ウサギが神使となったという。

さて、この「撫でうさぎ」、その名のとおり、撫でると病気平癒や開運などの願いがかなうという。よって、この「撫でうさぎ」は、多くの参拝者から頭を撫でられ、頭の部分の色が落ちている。しかし、このウサギについては、色が落ちているからこそ、神々しく気高いのである。鵜戸神宮の「撫でうさぎ」は、人々の願いを一身に受け、長年、頑張ってきたのである。多くの人々は、このウサギに手を触れたとき、願をかけるだけでなく、どことなく愛おしい気持ちになり、いつもより豊かな気持ちになっているのではないだろうか。

やはり、旅は実際に見て、触れて、多くのことを実感するのがよい。宮崎県内には日向神話にまつわる多くの風景や神社がある。そこに、直接、足を運び、多くの実感を得ることは、デジタル化された社会を生きる我々に、多くの潤いを与えてくれるのではないだろうか。

宮崎県立看護大学教授　大館 真晴

［執筆者紹介］
大館 真晴
1972年宮崎県都城市生まれ。國學院大學大学院文学研究科日本文学専攻博士課程後期修了、博士（文学）。奈良県立万葉文化館研究協力員。主な著書に『日本書紀の作品論的研究ー人物造形のあり方を中心にー』（國學院大學大学院研究叢書）、『日本書紀【歌】全注釈』（共著、笠間書院）、『日本書紀と古代天皇の謎』（共著、株KADOKAWA）など。

国生み・神生み

天地をつかさどる三貴子誕生

むかし天地が開き始めたころ高天原（たかあまのはら）に現れたイザナキノミコトとイザナミノミコト（男女一対の神様）は、混沌とした海のような下界に国をつくります。天の浮橋（あめのうきはし）から天の沼矛（あめのぬぼこ）を下ろしてかき混ぜると、淡路、四国、九州と次々に国が生まれました。

その後、山の神や海の神など35柱の神が生まれましたが、火の神・カグツチノカミを産んだときの傷がもとでイザナミノミコトは黄泉国（よもつくに）へ旅立ってしまいます。

イザナキノミコトは、妻をよみがえらせようと死者の世界を訪れますが、変わり果てたその姿に驚いて逃げ帰り、阿波岐原（あわきがはら）の「みそぎ池」で穢れた体を洗い清めました。そのとき、三貴子と呼ばれる3柱の神、太陽の神アマテラスオオミカミと月の神ツクヨミノミコト、海を司るスサノオノミコトが誕生しました。

みそぎ池／宮崎市

イザナキノミコト伝承の地　宮崎市

「かけまくも畏（かしこ）き 伊邪那岐（いざなきのおおかみ）大神
筑紫の日向の橘の小戸（おと）の
阿波岐原（あわきはら）に　御禊祓（みそぎはら）へ給ひし…」

※祓詞（はらえことば）／全国の神社でよくあげられる祝詞

参道右手にそびえる御神木のクスノキ

江田（えだ）神社

みそぎ池の近くにあり、イザナキノミコト・イザナミノミコトを祀っています。平安中期の『延喜式』にも記された由緒ある神社で、全国の神社で奏上される祝詞の舞台として、「お祓い発祥の地」ともいわれます。

みそぎ池（御池）

みそぎ池のスイレン

イザナキノミコトが黄泉国から戻って禊ぎをしたと伝わる池。阿波岐原森林公園（市民の森）の中にあり、周辺には小戸の地名も残っています。流れ込む川がなく、湧き水だけの深い水を湛えています。

イザナキノミコト伝承の地　都城市

東霧島（つまきりしま）神社

高千穂峰をとりまく霧島六社権現の1つで、御祭神はイザナキノミコトです。境内には「神石」や、鬼が一夜で造ったといわれる「鬼岩階段」があります。

神石（かみいし）

カグツチの出産で妻イザナミノミコトを亡くしたイザナキノミコトが、カグツチを憎しみ「十握（とつか）の剣」で三段に斬り裂いた跡と伝えられています。

天岩戸開き

闇に覆われた世界に光を再び

三貴子の１人スサノオノミコトは、イザナキノミコトから海を治めるよう命じられますが、黄泉国にいった母が恋しくて昼も夜も天地が揺れるほどの大声で泣き、暴れました。恐ろしくなったアマテラスオオミカミは、「天岩屋（あまのいわや）」に隠れてしまいます。太陽神が隠れてしまったのですから、この世は闇に覆われ、真っ暗になってしまいました。

困り果てた八百万（やおよろず）の神々は、「天安河原（あまのやすがわら）」に集まって相談し、天岩屋の前で大宴会を始めます。アメノウズメノミコトという女神が、伏せた桶の上で服も脱げてしまうほどおもしろおかしく踊ったので、神々は高天原が揺れるほど大きな声で笑いました。

外の騒ぎを不思議に思ったアマテラスオオミカミは、岩戸を少し開いて「皆はなぜ笑っているの？」と尋ねます。アメノウズメノミコトは「あなたより尊い神様がここにいらっしゃるから、みんな喜んでいるのです」と言いました。そして、アメノコヤネノミコトとフトダマノミコトが隙間から鏡を見せました。アマテラスオオミカミは、鏡の中の光り輝く姿をもっとよく見ようと岩戸をもう少し開きます。

その瞬間、力自慢のタヂカラヲノミコトがアマテラスオオミカミの手をとって外に連れ出しました。こうして、この世に再び光が戻ったのです。

天岩戸をご神体とする西本宮

天岩戸開き伝承の地

高千穂町

天岩戸神社

岩戸川を挟んで西本宮と東本宮があり、両社ともアマテラスオオミカミを御祭神としてお祀りしています。西本宮の対岸にある山の中腹にアマテラスオオミカミが隠れたという岩屋があり、社務所にお願いすれば遙拝することができます。

東本宮

東本宮は天岩屋を出たアマテラスオオミカミが最初に住んだ場所をお祀りしています。

天安河原（あまのやすがわら）

天岩屋に隠れてしまったアマテラスオオミカミをなんとかして外に連れ出すために八百万の神々が相談をしたとされる場所。累々と石が転がる河原の脇に岩戸川が削った大きな洞窟「仰慕窟（ぎょうぼがいわや）」があり、訪れた人々によって祈りと神々への崇拝の気持ちが込められた無数の石が積み重ねられ、神秘的な雰囲気に包まれています。

みやざきの神楽

「神話の源流」と呼ばれる宮崎県には、各地に200を超える神楽が伝承されています。みやざきの神楽は、神話の神々に加え、その土地の守り神も多く登場するなど、人々の暮らしと密接に関わりながら、地域色豊かに発展してきました。地域に連綿と伝えられた熱く神秘的な舞は、見る者を引きつけてやみません。

戸取／高千穂の夜神楽

スサノオノミコトの子孫オオクニヌシノミコトは、様々な困難を乗り越え、「葦原中国（あしはらのなかつくに）」をつくり、地上を治めるようになりました。

しかし、これを見た高天原のアマテラスオオミカミは、「地上世界は私の子孫が治めるべき場所である」と言い、何度も使者を遣わします。とうとうオオクニヌシノミコトは国を譲ることを承諾し、その代わりに「ひときわ高くそびえる宮殿に住まわせてほしい」と願います。これが出雲大社の起源であると伝えられています。

その後、アマテラスオオミカミは、孫であるニニギノミコトに葦原中国を治めるように命じます。ニニギノミコトはアマテラスオオミカミから三種の神器（さんしゅのじんぎ）をもらい、アメノウズメノミコトや道案内のサルタビコノミコトらとともに出発し、たくさんの雲をかき分け、かき分け、ようやく筑紫の日向の高千穂にそびえる峰に降り立ちます。ニニギノミコトは、朝日が正面から射し、夕日が輝くこの日向の地に高天原に届くほどの大きな屋根を築いて住むことにしました。

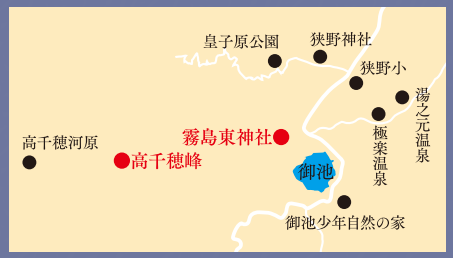
天孫降臨

天命を受け地上へ

天孫降臨伝承の地 高原町

霧島東神社

高千穂峰の麓、御池を一望する景勝地に鎮座します。崇仁天皇の御代（紀元前148年～）の創建と伝えられ、天逆鉾は同社の社宝です。



高千穂峰（たかちほのみね）・天逆鉾（あまのさかほこ）

鹿児島県との県境にある標高1,574mの山で、天孫降臨の地と伝わります。その山頂に立てられた「天逆鉾」は、諸説ありますが、ニニギノミコトが地上に降り立つ場所を雲の上から探すために使い、山頂に逆さに立てたもの、とも伝わります。

天孫降臨伝承の地 高千穂町

高千穂神社

高千穂八十八社の総社として信仰を集める古社。日向三代とその妻の６柱「高千穂皇神（たかちほすめがみ）」と、神武天皇の兄ミケヌノミコトとその妻子の十社大明神を祀ります。

夫婦杉（めおとすぎ）

高千穂神社境内にそびえる夫婦杉。周りを、夫婦、恋人と手をつなぎ３回まわると、縁結び・家内安全・子孫繁栄の３つの願いが叶うといわれています。

くしふる神社

古事記に「竺紫の日向の高千穂のくじふるたけに天降（あも）りましき」とあり、その場所と考えられる「くしふる峯」の中腹にある神社です。

二上神社（ふたがみ）

『日向国風土記逸文』に「日向の高千穂の二上山の峯に天降りましき」と記される二上山の麓に鎮座しており、昔は山全体が御神体でした。イザナキノミコトとイザナミノミコトを祀っています。

コノハナノサクヤヒメ

木花佐久夜毘売

天つ神と国つ神の娘の恋のものがたり

地上に降り立った天つ神ニニギノミコトは「笠沙の岬（かささのみさき）」で美しい娘に出会います。「あなたは誰の娘か」と尋ねると、「オオヤマツミノカミの娘でコノハナノサクヤヒメ。姉のイワナガヒメがいます」と答えます。

一目で気に入ったニニギノミコトが使者を立て求婚すると、喜んだオオヤマツミノカミは、姉のイワナガヒメも一緒に結婚させようとしました。しかし、ニニギノミコトは、容姿の劣る姉を帰し、木の花のごとく咲き栄える妹のコノハナノサクヤヒメと一夜の契りを結びます。オオヤマツミノカミは、これを知って「岩のごとく変わらないイワナガヒメを帰したので、天つ神の子孫には命の限りができるでしょう」と言いました。

その後、コノハナノサクヤヒメは産み月を迎えますが、ニニギノミコトは自分の子ではないと疑います。そこでコノハナノサクヤヒメは戸のない産屋をつくり、「この子が天つ神の子ならば無事に生まれるでしょう」と言って産屋に入り火を放ちました。

無事3人の皇子が生まれ、ニニギノミコトの血を受け継いでいることを示したのです。

コノハナノサクヤヒメ
ニニギノミコト伝承地 **西都市**

都萬（つま）神社

都萬神社は日向国式内四座の一つとされる古社です。昔は「妻万」とも書き、「さいまん様」と呼ばれました。主祭神はコノハナノサクヤヒメで、ニニギノミコトと結ばれたことから、古くから縁結びの神と親しまれています。

都萬神社クス

本殿南側にそびえるクスノキ。二度にわたる火災等で樹幹を失いながらも樹勢を取り戻した、生命力溢れる古木です。

鬼（おに）の窟（いわや）

コノハナノサクヤヒメに恋した鬼が一夜にして作ったと伝わります。父のオオヤマツミノカミの機転で未完成に終わりました。

男狭穂塚（おさほづか）・女狭穂塚（めさほづか）

それぞれニニギノミコト、コノハナノサクヤヒメの御陵と伝えられます。男狭穂塚は日本最大の帆立貝形古墳で、女狭穂塚は九州最大の前方後円墳です。

コノハナノサクヤヒメ
伝承の地 **宮崎市**

木花神社

コノハナノサクヤヒメとニニギノミコトを祀り、「木花」は「コノハナ（木の花）」に由来すると伝わります。境内には、3皇子を出産した産屋「無戸室（うつむろ）」の跡や、産湯に使ったと伝わる「霊泉桜川」などがあります。

コノハナノサクヤヒメ
ニニギノミコト伝承の地 **延岡市**

ニニギノミコト御陵墓参考地

延岡市北川町にある可愛岳（えのたけ）の麓にあり、宮内庁の御陵墓参考地に認定されています。

愛宕山

古来「笠沙（かささ）」と呼ばれ、ニニギノミコトとコノハナノサクヤヒメが、この地で出逢い、結婚したという伝説があります。日本夜景遺産、夜景100選に認定されています。

海の神と山の神のものがたり

海幸彦・山幸彦

ニニギノミコトとコノハナノサクヤヒメの間に生まれた3人の皇子のうち、兄のホデリノミコトは海のものをとるので「海幸彦」、弟のホオリノミコトは山のものをとるので「山幸彦」と呼ばれます。あるときお互いの道具を取り替え、山幸彦は海にでかけますが、魚が釣れないばかりか、大切な釣針をなくしてしまいます。

怒った兄に許してもらえず、海辺で泣いていると、シオツチノカミによって綿津見宮（わたつみのみや）に導かれ、そこで海の神の娘トヨタマヒメと出会い、楽しく暮らします。

そうして3年経ったある日、釣針のことを思い出します。海の神は魚たちを集めて探し出し、山幸彦に釣針を返すときの呪文を教え、潮を操る不思議な珠を持たせます。

故郷に帰った山幸彦が呪文を唱えて釣針を返すと、海幸彦はだんだん貧しくなり、山幸彦をねたんで攻め込んできます。そこで山幸彦は、不思議な珠を使って海幸彦をおぼれさせ、降参すると助けました。それから後、海幸彦は山幸彦に仕えるようになりました。

海幸彦・山幸彦伝承の地

宮崎市

青島神社

青島の中にあり、青島全島を境内地とする神社です。山幸彦とその妻トヨタマヒメ、シオツチノカミが祀られており、縁結び、安産、航海安全の社として知られています。

元宮

青島のほぼ中央に位置する「元宮」。亜熱帯の木々に囲まれた神秘的な雰囲気に包まれます。

海幸彦伝承の地

日南市

潮嶽神社（うしおだけ）

海幸彦を主祭神とする全国で唯一の神社です。山幸彦にこらしめられた海幸彦が船でたどりついたのがこの地と伝えられています。伝説にちなみ、昔から縫い針の貸し借りをしない風習があります。

潮嶽神社の狛犬。この地域には、子どもの初参りに紅で額に「犬」の字を書く、海幸彦にまつわる風習があります。

山幸彦伝承の地

延岡市

神さん山

巨岩が折り重なった岩屋の中に約2mの神秘的な真三角の岩が鎮座する洞穴遺跡。近くを流れる祝子（ほうり）川一帯は、山幸彦ことホオリノミコトの産湯に使われたことが由来とされるなど、山幸彦が幼少期を過ごしたと伝わる地で、この遺跡も山幸彦の岩屋との伝承が残ります。

鵜戸神宮／日南市

豊玉毘売と玉依毘売

トヨタマヒメとタマヨリヒメ

日向の神々を支えた海の女神たち

山幸彦が故郷に帰った後、トヨタマヒメが訪ねてきます。子どもを身ごもり、出産が近づいたからです。早速、山幸彦は渚に産屋をつくり、鵜の羽根で屋根や壁を葺きますが、それが出来あがらないうちに産気づいてしまいます。産屋に入ったトヨタマヒメは、「子を産むとき私はもとの姿になります。けっして見ないでください」と頼みますが、山幸彦は隙間からこっそり覗き、そこに、のたうちまわる巨大なサメを目撃します。

トヨタマヒメは無事出産を終えますが、自分の姿を見られたことを恥じ、子どもを残したまま海への境界を閉ざし、綿津見宮に帰ってしまいます。けれども、わが子は可愛い。そこで、妹のタマヨリヒメに育ててもらうことにしました。この子どもがウガヤフキアエズノミコトです。

成長したウガヤフキアエズノミコトは、叔母で育ての親のタマヨリヒメを妻とし、4人の皇子が生まれます。その4番目の皇子が、後に初代神武天皇となるカムヤマトイハレビコノミコトです。

トヨタマヒメ タマヨリヒメ伝承の地 日南市

鵜戸神宮

御祭神ウガヤフキアエズノミコト生誕の地とされ、縁結び、安産、育児、海上安全の神様として知られています。「鵜戸さん」と愛称され、海に面した断崖絶壁の洞窟内に鎮座しています。

乳岩

トヨタマヒメが我が子を思って自分の乳房をくっつけたという岩。ウガヤフキアエズノミコトはそこから滴る水を飲み育ったといわれています。

亀石

トヨタマヒメが乗って来たといわれる霊石。運玉を注連縄の内側に投げ入れると願いが叶うとされています。

駒宮神社

神武天皇がアヒラツヒメを妻に迎えて住まわれた宮の跡と伝えられています。愛馬「龍石（たついし）」の伝説や愛用の鉾を納めたとされる「御鉾の窟」などがあるゆかりの地です。

御鉾の窟

神武天皇が愛用の鉾を納めたと伝わる巨岩。

宮浦神社

タマヨリヒメの住居跡に建てられたとされています。古くから安産祈願に参拝する人が多く、近くにはタマヨリヒメの御陵と伝わる「玉依姫陵」があります。

ウガヤフキアエズノミコトの皇子カムヤマトイハレビコノミコトは、兄弟たちに相談し、平安に政治を行う場所を求めて、日向から東の大和（やまと）へ向けて出発することを決意します。日向の高千穂を出発し、長い年月をかけて東に進みますが、大和の地に入ろうとしたときにナガスネヒコに攻められ、兄のイツセノミコトが亡くなります。その後、大変苦労して大和を平定し、橿原宮（かしはらのみや）で初代天皇に即位し、政治を行うことになりました。

宮崎県を舞台とするお話は、イハレビコノミコトが東に向けて旅立つまでですが、イハレビコノミコトが生まれ育った場所や宮を構えたところ、お舟出の港と伝わる地には古事記や日本書紀に書かれていない物語も伝承されています。

イハレビコノミコトは天候の良い日を伺いながら準備を進めて、美々津の港で待っていましたが、風向きや潮の流れが変わり、急遽予定を早めて旧暦8月1日の暁の頃に出発することになりました。村人は精一杯のはなむけとして急ごしらえのだんごをつくり、互いに「起きよ、起きよ」と起こしあって一行を見送ったそうです。

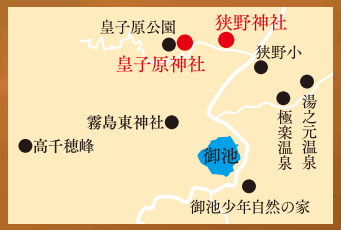
神武東征

東へと旅立つイハレビコノミコト

神武天皇伝承の地 高原町

産場石（うべし）

皇子原神社にあり、神武天皇はこの場所で生誕したといわれています。



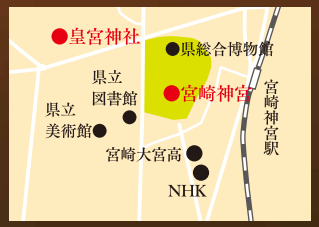
狭野神社

神武天皇御降誕の地に孝昭天皇の御代に創建されたと伝わりますが、その後の霧島山の噴火に伴い、たびたび遷座しました。霧島六社権現の１つとして厚い信仰を集めています。

神武天皇伝承の地 宮崎市

宮崎神宮

神武天皇を主祭神とする古社。10月の例祭とその後の「御神幸祭」は、東征にちなんで行われる祭りで、「神武さま」と親しまれています。近くには、神武天皇が東征するまで住んでいた皇居跡とされる皇宮神社（皇宮屋（こぐや））が鎮座します。



東征するまでの皇居跡と伝わる皇宮神社（皇宮屋）

神武天皇伝承の地 日向市・都農町

立磐神社（たていわ）

神武天皇お舟出の地のそばに鎮座。神武天皇が東征のお舟出の際、腰かけたという「御腰掛之岩」が祀られている神社です。

矢研（やとぎ）の滝

東へと向かった神武天皇が、道中にこの滝で矢を研いだとされます。